紅色にして萩如の花の色にして紅ハ赤の方を傾けてさま
ば落ちて風ふきて夕べの風に靡ぐうん蔦に紅葉色そへて
窓の紅色ハ隈く蔦く蔦く蔦の葉そぐく生の声々弱
ゆく北ハ冬の嵐にて木くの梢も光くと焼野の原ハしきて
降積む雪の深き夜に言問ふ道も埋まぬ是ハ如何なる
変ぞと思ふ付けて考の世の世事ハ一睡の芝ざる
門の事なりと初念なりて行く不ル一人の義に逢ひたり
武政收び是ハ如何なる変と問ふ答へて曰鳴呼聲
高し笑ふて安閑の習ひて隔生即忘ると五ニ詞を通
ぜ事ニ若し尋たき事なくば眼を眠り声低く思ひて寄
ハ武政変ふて言ふハ某今世ニ才母の胎ニ有しより
無双の譽有ニ御ふて出生ハ一ども未だ世間稽古
らず中国ニ三ヨ知れの一臺西国ハ毛利海津尼子善
州国ハ長尾薩摩国ハ北條上杉南海ハ御国武
田ハ美濃国ハ斎藤まで一国一郡も平均なるず日夜紅
等ハ戦野なれば偏ニ金鼓鐘の音動ニ異なれ古
漢楚秦白王をて世乗ハ八年ハ八年にて終り周の武
王殷の紂王を討ちしも三年にて終り本朝源平藤橋